

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	219130058		
法人名	医療法人社団 大治会		
事業所名	グループホーム おおぞら		
所在地	岐阜県加茂郡八百津町錦織1530番地39		
自己評価作成日	平成26年6月10日	評価結果市町村受理日	平成26年8月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2191300058-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成26年7月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から4年が経ちましたが、これまで利用者様が大きな事故や大病も無くやってこれました。利用者様も殆んど入れ替えないので 信頼関係も深くなっています。利用者様はやはり出来ていたことが、少しずつできなくなってきましたが、それほど体調の変化もなく以前と同じように生活されておられます。医療法人が運営するグループホームなので 医療機関との連携はスムーズで、風邪などを引いても処置が早いので、寝込むことなく軽くすんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所が、日常心がけている「笑顔・工夫・感動・心を大切にできるケア」を、全職員が受け止めて取り組んでいる。さらに職員は、専門職としての自己研鑽に励み、資格取得の機会を得ている。職員の定着率もよく、利用者は、家庭的な環境のなかで笑いの絶えない、その人らしい生活を送っている。そして、広い敷地内を思いのままに散歩をし、職員や仲間との会話を楽しみ、季節感を味わう日々を過ごしている。管理者・職員は、医療法人の機能と連携し、利用者の健康に細やかな気配りをし、一日でも長く、今の暮らしの継続を大切に、真心をこめて支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が生活していた町で笑顔で元気に生活し人生を全うしていく。利用者様同士の会話の中や地元のケーブルテレビを観たり回覧板をよまれたりし この地域の事を感じられ安心されてる。	理念は「笑顔・工夫・感動・心を大切にすると掲げ、毎朝ミーティング等で、その意義を共有している。利用者の表情や生活習慣、また、心の動きを受け止め、笑顔で元気な生活が送れるように実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し回覧板も回ってきている。地域のボランティアさんや音楽サークル 中学生の職業体験等の交流もある。	地域の行事には、積極的に参加して交流をしている。地元中学生の体験学習を受け入れたり、地域ボランティアとの交流も盛んである。法人内の行事を、自治会や近隣の人々に案内し、交流の輪を広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方がみえる家族の会が来訪されたり 管理者がその方達に支援方法等を講話した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回必ず行っており家族の参加も増えてきた。またその中から貴重な意見を伺い 家族会が発足したり わざわざ遠くから面会に来られた方を利用者様が忘れてしまいお礼が遅くなってしまうので 教えてほしい等の意見を頂き改善した。	会議は、地域代表、行政、民生委員、家族が参加をしている。事故対策や行政との連携などの意見があり、改善している。また、家族会の役割などで意見を交換し、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず町の福祉課課長等が出席をいただいている。また包括支援センターが開催する 町のケアマネ会議には管理者が出席している。	町の要望で、居宅介護支援事業所を開設している。また、町の各種審議会に参加し、地域や現場の実態を報告し、協力関係を築いている。行政主催の研修会などへは積極的に参加をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の行為は職員全員ミーティング等で理解している。玄関もいつも開放し出て行かれてもすぐ呼び止めない。	身体拘束ゼロのケアを実践している。重度化や個別の状況変化に対応し、利用者の行動や言語を理解しながら、安心感を与えるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員 虐待防止関連法の理解はできている。入浴介助も毎日職員が交代で行い 皮膚観察もしっかりできており 何かあれば管理者にすぐ連絡がくる		

岐阜県 グループホームおおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在権利擁護に関する制度を利用している方は誰もみえない。職員は以前成年後見人制度の研修は受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や契約時に、家族や利用者様に事業所の理念や利用料金の説明はしている。入居後の介護報酬の改定があれば書面を持って説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会の時には必ず意見を伺っている。また家族の面会時等にも話をしその中から要望などを聞きだせるようにしている。	毎月家族に「近況報告書」を送付し、その中に家族の要望、意見を求める紙面を作っている。家族の面会時にも、さまざまな意見・要望があり、それらには速やかに応えた取り組みを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議では職員の意見を聞いている。また毎朝のミーティングは 職員間で意見交換をし、介護が画一的なものにならないよう 色々な場面を例にとり介護の事はもとより医療や運営の話し合いをしている。	管理者は、定例会議で職員の意見や提案を聞いている。利用者の重度化対応や、外出の個々に適した支援と介護の充実について検討・改善しながら、職員のモチベーション(動機付け)を高めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は毎朝のミーティングなどから 職員の向上心を引き出すようにしている。職員は毎年数名各資格試験にチャレンジしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は毎朝のミーティングなどから 介護の深みや医療運営等スーパービジョン等をし職員の技術知識を身につけさせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内は他にグループホームは無いが、管理者は月に1回他の法人と交流し介護保険制度や介護やメンタルの事等相談している。		

岐阜県 グループホームおおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階は本人とのコミュニケーションを多くとるように時間を割き、早く信頼関係を築くように心がける 早く安心して生活が送れるように他の利用者様で気の合いそうな方の隣に座ってもらえるように配慮する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にも積極的に話をし、家族が本人に対する思いや意向を聞きだし、当事業所の介護の取組を説明しながら ケアプランに反映し実践していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階の相談から、本人家族に今何が必要な事かを見極め その時に一番大切なニーズから優先して支援していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が職員に迷惑をかけていると思われないような、さりげなく介助するように心掛け 家事もできる範囲で利用者様と職員で一緒に行く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人が疎遠にならないように近況報告を書面で月に一回報告したり、年一回の家族会で相互で利用者様を支え合うことを確認している。運営推進会議にも毎回違う家族の方に出席をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでもだれでも気楽に来訪して頂くような雰囲気作りをしなるべくたくさんの方に来訪されるように心がけている。 たまにドライブに出かけたり 家族にはたまに家や墓参りなど協力を得ている。	同じ敷地内のデイサービスや介護老人保健施設の利用者と、日常的に交流をしている。買い物では、馴染みの店に立ち寄り、知人に出会っている。さらに家族と協力して、馴染みの場所へ継続して出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が協力して行える食器拭き等の家事や カルタや皆さんで歌などを唄っているが 参加されない利用者にも 孤立しないようになるべく傍にいらったりしている。		

岐阜県 グループホームおおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設等へ移った利用者様は今のところいないが、もし移られたとしても支援や相談に対応する事は、当然だと認識している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いなどは その人の立場を自分に置き替えるようにして考えている。この考えを会議やミーティングの中でいつも話しあいをしている。この考えをを根本として、本人の言動行動の理解に努めている。	日々のケアを通じ、生活歴など会話の中で思いや意向を把握している。特に困難な人は、行動や表情から汲み取っている。把握した思いは、できる限り希望に沿った暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴などは 入浴時リラックスした時等、ご自身から離される事が多い。またプライバシーに配慮しながらリラックスした時間にさりげなくご本人に聞いたり 家族の方が来所された時に聞いてそれを職員全員に伝えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から 利用者様の強みの部分を抽出できるように 新しい発見を毎日のミーティングで話し合い共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は心身の変化が無くても定期的に見直し作成している。また家族や本人のさりげない一言にも注意をはらい 家族や主治医や職員の意見に配慮し、利用者様が安心して生活が送れるように計画に盛り込んでいる。	本人、家族、職員の声をケア会議で話し合い、介護計画に反映させている。利用者が、笑顔で安心して過ごすことできるように、専門職とも話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録はもとより バイタル排泄食事摂取量等毎日記録しており、それを基に毎朝のミーティングをしており 画一的にならないようにし少しの変化でも対応できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に医療的な事は管理者と主治医で密に情報交換し主治医は毎週1回訪問されているので、持病の悪化やADLの低下等にを最小限にとどまっている。また急病や容態の変化した時もスムーズに対応している。		

岐阜県 グループホームおおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーに買い物に行ったり 地域の色々なボランティアさんが来所し、交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者様が同法人の病院の医師がかかりつけ医だった事もあり 毎週訪問診療にみえている。歯科医師も連絡をすればすぐに訪問歯科診療にみえる。	契約時に、かかりつけ医に対する事業所の方針を説明し、本人、家族が選択をしている。ほとんどの利用者は、法人の医師が、かかりつけ医であり、訪問診療と医療連携は充実している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師が毎日のバイタルチェックや食事摂取量排泄管理をおこなっている。急病や体調の変化があった時でもすぐかかりつけ医に連絡が行くようにシステムになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	今まで入院した方は1名だけで、透析の為に通院している病院に入院されたが、通院時からその病院とは連絡ノートや電話で情報交換しており 関係作りはできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	最期までできる限り長く過ごせるように支援しているが 医療頻度が高くなった時は同法人の医師が判断して法人内の病院に移って頂く事を 契約時や家族会の時に家族に説明している。	重度化や終末期に向けた方針は文書化し、契約時に利用者、家族に説明し、同意を得ている。医療依存が避けられない場合は、関係者が話し合い、病院に移行するなど、適切な対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は常勤看護師や法人内の看護師や医師に連絡が行くようなシステムになっている。また会議などでアクシデントレポートの報告を基に急変時の初期対応の仕方を 常勤看護師から介護職員にレクチャーしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災専門会社と契約し、年2回防災訓練を行っている。地域の自治会の総会に出向き防災協力を呼び掛け大勢の方が防災訓練に参加をしていただいた。	年2回、夜間想定も含め防災訓練を実施している。自治会との協力関係はできている。災害に備え、備蓄や簡易トイレ、自家発電機も備えている。防災専門業者と建物、備品の管理契約を結んでいる。	

岐阜県 グループホームおおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長い間入居されている利用者様と職員はある程度信頼関係になってきたが、慣れてくると初心を忘れて、時に尊厳を傷つけてしまう発言も知らず知らずに出ている場面もある。毎日のミーティングなどでその方の尊厳の尊重などをプライバシーの確保を話している。	個人情報の保護や人権を尊重した対応をしている。一人ひとりの人格を尊重することを目指しているが、言葉遣いで、なれあいの関係にならないように、さらに努力を重ねている。	馴れ合いから、誇りやプライバシーを損ねる言葉かけや対応がないように、初心にかえり、接遇や介護の基本姿勢について、再確認を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ほとんどの方が遠慮されて思いや希望を言われないが、表情やしぐさでその方の思いをくみ取る様に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の概ねのスケジュールは決まっているが、各個人の都合や状態に合わせて食事や就寝時間等臨機応変に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選ばれる方もあるが、選ばれない方は職員が聞きながら用意している。口紅やマニキュアも時々支援している。ほとんどの方が訪問美容でカットしてもらっているが、本人が好みを言えない時は職員が事細かく美容師に伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事摂取は健康で過ごされる為の最重要事項としてとらえ、美味しくいただけるように職員が同じテーブルについて食事をしている。食事の準備や片付け等も一緒に行っている。	敷地内で野菜を育て、年間を通じ、自分たちで収穫した食材で楽しく食事をしている。職員も同じテーブルで食事をし、次の献立の話題につなげている。食事の準備や片付けも自発的に関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎日全量摂取されている方が多いが、時に食欲が無い時は食べられやすいように工夫したり おやつを工夫したりしている。水分も食事の後やおやつの時間風呂上がり夜間等にこまめに色々な飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは全員毎食後行っている。皆さん義歯なのでポリドントを使用している。		

岐阜県 グループホームおおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンを把握し、トイレ誘導し排泄している。その時の体調や下剤等の使用で紙パンツを使用する時もあるが、皆さん殆んど昼夜とも布パンツとパッドで過ごしてみえる。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い、昼夜、布パンツの人が多くなっている。職員との信頼関係も深まり、入居時より、自立度が向上し、排泄の安心につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方は、毎日整腸剤の量を臨機応変に変えて 自然排便を促している。またおやつに便秘に聞くブルーベリーをだしたりする工夫もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は皆さん喜ばれるので なるべくゆったり入れる工夫をしている。また入浴時はくつろいでおられるので職員にいろいろ話をされる事が多い。入浴日などは決めておらず なるべく頻回に入られるようにしている。	入浴は、できる限り希望の日時に、安心して入浴を楽しめるように取り組んでいる。入浴は、くつろぎと、職員とのコミュニケーションの場でもあり、本音の声を聴いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は大体の方が リビングにおられる事が多いので夜間は安眠される方が多い。夜間の排泄の回数にも留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全員薬情をカルテに綴っており 変更時は看護師が連絡ノート等で確実に伝えている。確実に投薬できるよう 職員が名前を声に出したりしているので 飲み忘れや誤薬は殆んどない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員ではないが 一人一人の役割や楽しみを考えて 家事や食事の手伝いやアクティビティを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に施設の外周を散歩している。年に数回家族の協力も得て 紅葉見物など遠くまで出かけている。	広い敷地内を自由に散歩している。個々の状態に合わせて、日光浴や自然にふれる楽しさを味わっている。年間の行事では、花見、紅葉やイチゴ狩りなど、家族と協力して出かけている。	

岐阜県 グループホームおおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	あらかじめ家族と相談して、小遣金を事務所で管理し、そこから本人が必要としているものや 外食した時の食事代等を支払いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人が希望されれば使用可能だが、殆んど希望されない。手紙も年賀状も書かれるように用意しても書かれない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんが作られた折り紙やカレンダーなど各部屋や廊下に飾ってある。各部屋入口には暖簾で個性をだしてある。	天井が高く、開放感がある共用の空間に、ソファを設置し、そこにぬいぐるみの猫を座らせ、なごめるように工夫をしている。季節の花や手づくりの共同作品を要所に掲示し、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活が窮屈にならないように、一人で散歩に行かれる方もみえる。隣接する老健に出かけたり 一人で玄関の椅子に座っていたり リビングで気の合った方同士で話されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋には慣れ親しんだものを持って来られるように家族には話してある。自分で制作された折り紙やカレンダーなども飾ってある。	居室には、利便性の高いベットや整理タンスが設置してある。好きな花や折り紙、思い出の写真や家族の結婚式などの写真を飾り、その人らしい居室づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋にネームプレートは無くのれんやドアの取っ手の色で個性をだしている。トイレはピンクのドアにしてわかりやすくしてある。廊下には物を置かないようにして安全に歩行できるようにしている。		